

名を万石七万石又松万石の身上皆四千三千二千石
に減りたり

藩生秀行以使者小野田同志実布施
事

一秀行と申は番主石の藩千代具後友と申と
号し一氏江の嫡子なり家乞藩生以弟たる
所存なり家二つ別道て大乳出来し
て各あり金庫百廿万石と江戸上総松八万石
あり宇津志は種々の去程小徳代の侍大
分金庫ありあり弟勝公は石心なりけし秀行

より江戸より自筆の物を使ふ不抄せし會
津小強りより旧所の侍大とありこれに
文徳代の侍大なり一旦上松家へ附し
旧思にこれよりあるにけし秀行事字は文ハ
一の先子あると云関東の先子と云ふ
とありて弟勝よりより侍大なりと云ふ
貴君と云ふし一と云ふにれり
是野田同志実此松萬石布施次第外池
甚あたる小田切不たる尉より景書安田
今北川景書何處秀行由と云ふと見し